

(別添 4)

【愛知県小牧市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

AIやビッグデータ等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代が到来しつつあります。世の中全体のデジタル化、オンライン化が大きく進展しているなか、これからの学校は、ICTを最大限活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められています。

本市がこれまで取り組んできた人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」や自分で課題を設定し、情報を集めて整理・分析、まとめ・表現する「探究的な学び」を推進するとともに、一斉学習・個別学習・協働学習のそれぞれの学習場面や学習プロセスにおいてICTを効果的に活用することは、こどもたちが様々な課題に関心を持って主体的・対話的に深く学ぶことにつながります。

モバイル性が高く、使い勝手の良い1人1台端末、クラウドサービスの活用を前提とした通信ネットワークなどのICT環境を整備し、学びの道具としてICTを活用することにより、次の5つの力をあわせ持つ「時代を切り拓くこども」の育成を目指します。

時代を切り拓くこども～ICTで伸ばすこどもの力～

1. 情報を収集する力
2. 情報を取捨選択し、読み解く力
3. 論理的・創造的に思考する力
4. 課題を発見・解決し、新たな価値を創造する力
5. よりよい社会や人生のあり方について考え、
学んだことを生かそうとする力

2. GIGA第1期の総括

本市は、コロナ禍以前より、全国に先駆けて、コンピュータ教室や指導者用デジタル教科書、電子黒板などICT環境の整備・充実に積極的に取り組んできました。

令和元年度には、小学校2校及び中学校2校をモデル校に指定し、3クラスに1クラス程度の端末を先行整備し、その後、令和2年度には、国のGIGAスクール構想を踏まえ、1人1台端末を整備し、学校現場では教科や学習場面に応じて、情報の収集・理解・整理・発信・共有のツールとして端末を日常的に活用しています。

また、令和3年度から、全小中学校の全学年において、月1回以上の端末の持ち帰りを実施し、家庭学習においても端末を活用してきました。

さらに、臨時休校等の学びの保障として、授業支援ソフトウェアやウェブ会議システムを活用したオンライン学習を段階的に充実し、現在では学級閉鎖や学年閉鎖時にオンライン学習を実施することが浸透しています。

端末を使って児童生徒が自分の考えをまとめ、クラスメートとリアルタイムで考えを共有する授業支援ソフトウェアや児童生徒一人ひとりの理解度にあわせて問題を出すAI型のデジタルドリルを利用するなど、多種多様なデジタルコンテンツを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきました。

これらの取組の結果、本市は、令和5年度に実施した全国学力・学習状況調査で、「授業でタブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した割合」が全国や県平均と比べて高い数値を示すなど、ICTが児童生徒にも「学びの道具」として定着しつつあります。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期では、1人1台端末を「学びの道具」として日常的に活用することに力を注いできた結果、1人1台端末はもはや児童生徒にとって必要不可欠な学びの道具となっています。

そのような中、令和元年度に先行整備した1人1台端末は、導入後4年が経過し、バッテリー持続時間が短く、授業での活用に支障が出る場面が増えつつあります。児童生徒の学びを止めないためにも、1人1台端末の着実かつ円滑な更新を進めます。

GIGA第2期においては、次のとおり、1人1台端末の利活用を推進し、「時代を切り拓くこども」の育成を図ります。

1. 1人1台端末の積極的活用

各校の教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的・定期的を実施します。

ICT機器に造詣が深く、教育内容や教材の知識も有するICT支援員を継続的に配置し、ICT活用の各種支援や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行います。

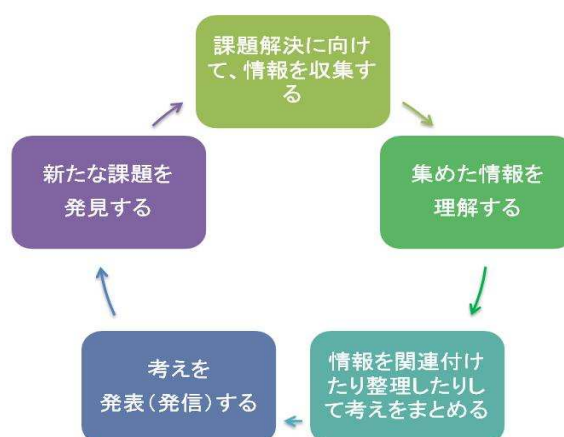
端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、AI型デジタルドリル、授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用します。また、課題解決に向けて論理的に思考する力を育成するため、プログラミング教材を活用します。

利活用の推進にあたっては、こどもたち一人ひとりが情報のもつ力を正しく理解し、適切に判断して行動できる力をもつことが必要です。デジタル・シティズンシップ教育を推進するためには、学校だけではなく、家庭の役割も非常に重要なことから、保護者に情報モラルについて周知啓発します。

2. 個別最適・協働的な学びの充実

学習プロセスにおいてICTを活用する場面はたくさんあります。こどもたちが自らの考えで、目的や場面に合わせてICTを使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。

また、教員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面でICTを積極的に活用し、協働的な学びを充実します。



さらに、児童生徒一人ひとりの特性にあった方法で学習を進めるため、AI型デジタルドリル等で取り組んだ学習履歴をはじめとする教育ビッグデータの収集・分析・活用方法について研究します。

3. 学びの保障

文部科学省の「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」及び「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」に記載されているとおり、1人1台端末を活用し、心や体調の変化を早期発見する取組が広がりつつあります。

本市においても、こうした動向を踏まえ、GIGA第2期では、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用していきます。